

2026 年度第二次教育学研究科 入学試験問題(直接解答)

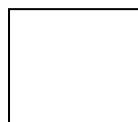
| | | | |
|----------|----------|--------------|-----------|
| 博士課程前期課程 | 共生教育研究領域 | 試験科目 専門科目 | 受験番号 番 |
|----------|----------|--------------|-----------|

解答記入不可

↑

問題 1

診断的評価、形成的評価、総括的評価について説明し、現在の学校教育における意義と活用について論ぜよ。



3枚中

1

2026 年度第二次教育学研究科 入学試験問題(直接解答)

| | | | |
|----------|----------|--------------|-----------|
| 博士課程前期課程 | 共生教育研究領域 | 試験科目 専門科目 | 受験番号 番 |
|----------|----------|--------------|-----------|

解答記入不可

↑

問題2

日本社会における教育格差の実態とその原因について、説明せよ。



3枚中

2

2026 年度第二次教育学研究科 入学試験問題(直接解答)

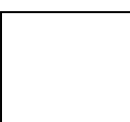
| | | | |
|----------|----------|--------------|-----------|
| 博士課程前期課程 | 共生教育研究領域 | 試験科目 専門科目 | 受験番号 番 |
|----------|----------|--------------|-----------|

解答記入不可

↑

問題 3

思春期の身体的発達が心理面に与える影響について論ぜよ。



3枚中

3

2026 年度 第二次 教育学研究科入学試験問題

博士課程前期課程／共生教育研究領域／専門科目（解答例）

解答例

[問題 1]

診断的評価、形成的評価、総括的評価について定義を明確に区別して述べて、それぞれの目的、活用、特徴を対比させながら説明する。

それぞれの評価が持つ役割の違いを明確にさせながら、個別最適な学びとの関連、ICT を活用による評価の高度化、資質・能力の3つの柱に対応した評価などの現在の学校教育における意義及び3つの評価をつなげた「評価と指導の一体化」などの活用について論じる。

[問題 2]

・教育格差の実態として、「親の学歴や収入」と「子どもの学力や学歴」とが、正の相関となっている傾向を述べている。

・文化資本の存在、子ども期の体験格差について述べている。

・教育格差の原因として、日本社会の経済格差が拡大していること、大学入試の多様化により、文化資本や体験格差が学歴達成に与える影響が大きくなったことを述べている。

[問題 3]

思春期における二次的性徴の特徴を整理し、それが認知的・心理的・社会的側面の発達にどのような影響を及ぼすかを説明する。身体的変化は自己意識の高まりを促し、自己概念の再編やアイデンティティの探求へとつながるといふ適応的側面をもつ。一方で、現実自己・理想自己・義務自己の不一致などが顕在化することにより、不安や葛藤を生じさせるなど、不適応的側面をも併せ持つことを論じる。さらに、思春期が生涯発達の中で心理社会的危機の契機となる重要な発達段階であることを位置づける。加えて、性差やジェンダーに関連する課題にまで言及できれば、より深い理解を示す答案となる。

2026 年度 第二次 教育学研究科入学試験問題

博士課程前期課程／共生教育研究領域／専門科目（出題意図）

出題意図

[問題 1]

診断的評価、形成的評価、総括的評価の定義を理解し明確に区別して説明できるか、3つの評価の役割に視点をあてながら現在の学校教育における意義と活用について論理的に表現できるかを問う。

[問題 2]

今日の教育現場で問題となっている「教育格差」について、正確に認識し、その実態と原因を説明できるかを問う。

[問題 3]

性ホルモンの分泌に伴う二次性徴が脳機能の発達を促進し、心理社会的側面に影響を及ぼすことについて理解しているかを問うた。子どもの心理的問題は、性格や家庭環境などの個人的要因のみで説明されがちである。しかし実際には、生物学的発達という一般的なプロセスの影響も大きい。本問では、身体と心の相互関連を踏まえた総合的理解ができているかを評価することを目的とした。また、子どもを理解する際のアセスメントにおいて、発達段階という視点をどの程度重視できるかを確認する意図もある。